

2018年7月2日

各 位

ヒューマンライフコード株式会社
代表取締役社長 原田 雅充
お問い合わせ先：総務部 IR担当 深澤
ir@humanlifecord.com

自己脂肪由来の血管内皮前駆細胞を活用したフレイル（高齢者の脆弱）対策に関する
自治医科大学との共同研究開始のお知らせ

ヒューマンライフコード株式会社（本社：東京都、以下「ヒューマンライフコード」）は、この度、フレイル（高齢者の脆弱）に対する自己脂肪由来の血管内皮前駆細胞による再生修復医療の事業化を目指し、学校法人自治医科大学と共同研究契約（研究代表者：形成外科学部門 吉村浩太郎教授）を締結したことをお知らせします。

フレイルとは、加齢とともに筋力や認知機能などが低下し、生活機能障害・要介護状態、死亡などの危険性が高くなった状態のことです。その原因は特定されていませんが、加齢による消化・吸収・代謝の変化が影響しており、栄養素や老廃物を運搬する血管の機能低下が大きな要因のひとつとされています。その一方で、フレイルは、適切な介入・支援により、健康時の生活機能への改善が可能なものであり、運動や食生活の改善と共に、細胞工学的な血管の機能維持・機能向上による症状改善の研究が各国で進められています。

本共同研究では、脂肪から血管内皮前駆細胞を分離精製する研究で世界のトップレベルを走る自治医科大学の自己脂肪組織から血管内皮前駆細胞を高効率に抽出する技術を活用し、血管内皮前駆細胞の分子細胞学的性状の解析と共にフレイルの血管内皮前駆細胞を再活性化する新たな再生修復医療技術の確立を目指します。

以上

フレイルについて

フレイルとは、加齢に伴う様々な機能変化や予備能力低下によって健康障害に対する脆弱性が増加した状態と理解される。実際、フレイル高齢者では日常生活機能障害、施設入所、転倒、入院をはじめとする健康障害を認めやすく死亡割合も高くなることが知られている¹⁾。地域在住高齢者に対するフレイルの頻度は11.3%であった（平均年齢71歳）とする報告はあるが、全国縦断的な疫学データは存在しない²⁾。

1) 日本老年医学会雑誌 51 巻 6 号 (2014 : 11)

2) J Ame Med Dir Assoc 2013; 14: 518—524



Human Life CORD

J A P A N

ヒューマンライフコードについて

ヒューマンライフコード (<http://www.humanlifecord.com/>) は、再生修復医療に特化し、健康を維持するために存在する細胞を、先天的もしくは老化や治療など後天的に組織修復が必要となった患者へ“つなげ” (“コード”)、一人でも多くのヒトの心豊かな生活 (“ヒューマンライフ”) を実現すべく、臍帯や脂肪などの医療廃棄物を臨床使用への用途に応じて利活用するビジネスモデルを積極的に展開することを使命としています。国内外のアカデミア・事業会社との戦略的提携を通じ、高品質かつ安全な国産の再生医療等製品を安定供給できる体制を構築し、再生修復医療の産業化に貢献します。